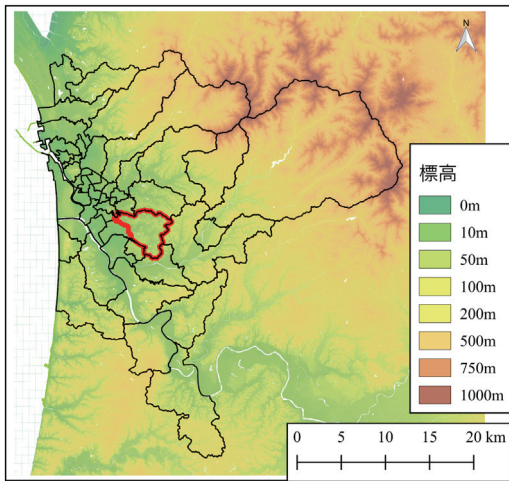


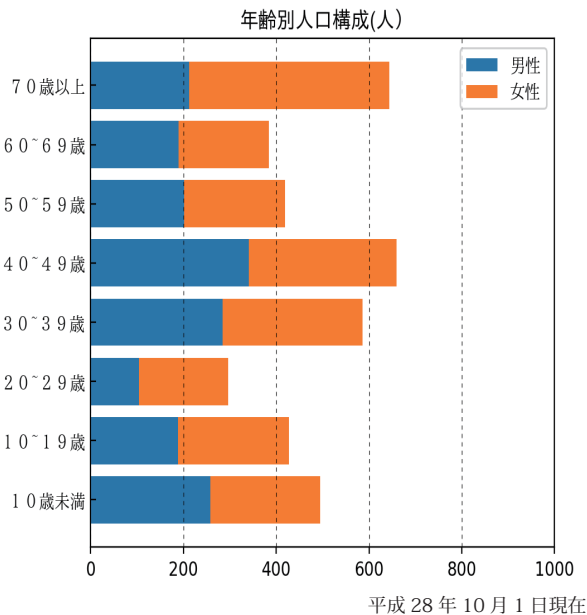
33：上北手小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	3,934 人
世帯数	1,261 世帯
65 歳以上人口	824 人
10 歳未満人口	494 人



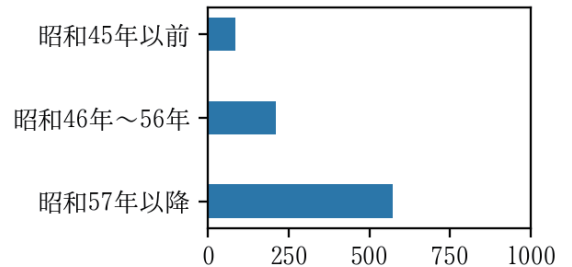
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	866
非木造建物	65

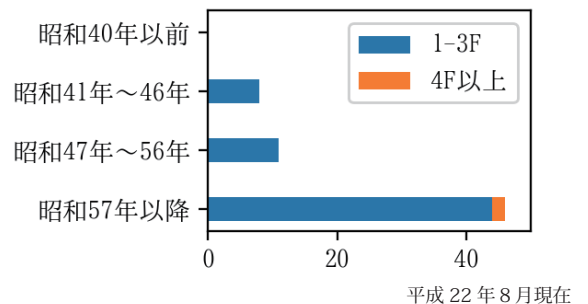
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	574
昭和46年~56年	209
昭和45年以前	83



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	44	2
昭和47年~56年	11	0
昭和41年~46年	8	0
昭和40年以前	0	0



自然的・社会的基本指標

秋田市域の中央部に位置し、猿田川流域および大戸川流域からなり、全体に比較的なだらかな山地が広がる。集落は谷底平野部に点在しているが、学校区の西端部の低丘陵部(山手台地区)では土地開発が進められ住宅が増加している。ほぼ全域に危険箇所が分布する。人口構成では、新規造成団地があることと養護系教育施設が新設されたことの影響とみられるが、30歳代~40歳代と10歳代以下の構成比が高くなっている。65歳以上の高齢者層は、21%となっており、全市域の中では高齢者比率が低い学校区である。昭和56年代以降の建築物が全体の67%である。

3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 洪水

指定河川	猿田川	雄物川	
浸水面積 (%)	8.0	3.9	
最大浸水深 (m)	—	ランク 3	

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	43	前田、荒巻、諏訪ノ沢、苗代沢、四ツ小屋、館ノ下、砂子沢、大杉沢、百崎 他
土石流危険渓流	64	猪ノ沢、大杉沢、苗代沢、脇ノ田沢、太平沢、猿田沢、砂子沢、中谷地沢、二夕子沢 他
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	33	荒巻、二夕子沢、四ツ小屋、砂子沢、寺ノ沢、脇ノ田、大杉沢 他

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	75	苗代坂沢 2、荒巻沢 1、2、谷崎、百崎、荒巻、石川 他
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度 (計測震度)	震度 6 弱 (5.73)
震度 6 強以上となる面積 (%)	7
液状化危険度ランク	4
建物全壊率 (%)	2.0

* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合)

浸水面積 (%)	(該当なし)
最大浸水深 (m)	(該当なし)

4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	12
婦人幼児支援	1
障がい者等支援	15

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	2
こども園	0
幼稚園	0

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	1

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	0
高等学校	0
大学・短大・高専	2
養護学校等	3

5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	50
防火水槽 (箇所)	25
消防車台数 (台)	10
消防ポンプ数 (台)	3
消防団員数 (人)	65

■ 避難所/避難場所 (別表参照)

災害種別	施設数
洪水	1
土砂災害	0
地震	3
津波	0
福祉避難所	6
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	秋田南消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	2
最寄りの救急告示病院	秋田赤十字病院
自主防災組織数	13

自然災害時の危険要素

猿田川の氾濫による洪水の危険性が猿田川に沿った地区で想定されている (浸水深 0.5m 未満)。雄物川の氾濫による洪水によっても、学校区内の一部で浸水するものとみられている。

土砂災害の危険度は高いと評価されており、警戒区域等として 75 箇所 (急傾斜 36 箇所、土石流 39 箇所) の指定が行われている。

地震時の揺れやすさ学校区西部の猿田川に面した低平地でやや揺れやすくなっているほかは、全域的にほぼ同様の揺れやすさとなっている。液状化の危険性は平野部で高い。津波による浸水の恐れは極めて低いと想定されている。

防災上の課題と対策

上北手小学校区内では猿田川に沿う低地部に散在する集落群が主体となっているが、西部の台地上や南部の御所野小学校区に隣接する台地上に新興の住宅地 (山手台など) が形成されている。

猿田川沿いの集落の多くは、土砂災害およびなだれの危険性が高いことから、集落単位で災害時の情報連絡体制および一時避難方法などを検討し、住民自らが災害時に的確な判断を下せるよう、自主的な避難計画を策定することが望ましい。

山手台等の新興住宅地については、人口が新たに急増して

いる地区であることから、地域の協同・相互補助の体制の醸成・強化を図るよう働きかけていく必要がある。地域の特性を考慮した避難訓練等を実施することが有効であると考えられる。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
上北手小学校グラウンド	x	x	x	○	x	x	3,105人
上北手小学校（体育館）	○	x	x	○	x	x	274人
上北手地区 コミュニティセンター	○	○	x	○	x	x	42人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
特別養護老人ホーム 一つ森	上北手荒巻字鳥越 229 番 1 号	018-870-2001
特別養護老人ホーム 南寿園	上北手猿田後谷地 108-3	018-829-0700
高清水園	上北手猿田字苗代沢 14 番地の 1	018-829-3577
秋田県立視覚支援学校	上北手百崎字諏訪ノ沢 3 番 127	018-889-8571
秋田県立聴覚支援学校	上北手百崎字諏訪ノ沢 3 番 127	018-889-8572
秋田県立 秋田きらり支援学校	上北手百崎字諏訪ノ沢 3 番 127	018-889-8573

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

